

2018年12月20日

受益者の皆さまへ

三井住友アセットマネジメント株式会社

三井住友・スーパーアクティブ・オープンの基準価額下落について

(12月20日の基準価額の変動要因についてのお知らせ)

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

2018年12月20日、以下のファンドの基準価額が前営業日比5%以上の下落となりましたので、要因等についてご報告致します。

1. 基準価額が前営業日比5%以上下落したファンドの名称とその状況

ファンド名	基準価額 (円) (2018年12月20日)	前営業日比 (円) (2018年12月19日比)	変動率
三井住友・スーパーアクティブ・オープン	4,621	-253	-5.19%

2. 基準価額の変動要因等について

国内株式市場は、前日の米国株式市場が大幅に下落したことを受けて全面安の展開となりました。FOMC（米連邦公開市場委員会）における追加利上げ決定は事前予想通りだったものの、その後のパウエルFRB（米連邦準備制度理事会）議長の記者会見の内容が、市場が期待していたほど利上げに慎重ではないと受けとめられたことから、利上げが景気に与える影響が懸念され米国株式市場は大幅に下落しました。国内株式市場もこの流れを引き継ぎ、投資家のリスク・オフ（リスク回避）姿勢が強まったことから幅広い銘柄が売られる展開となりました。日経平均株価が終値20,392.58円で前営業日比2.84%の大幅下落となったほか、東証株価指数（TOPIX）も終値1,517.16ポイントで同2.51%下落、TOPIX先物3月限は終値1,506ポイントで同3.06%の下落となりました。業種別でも電気・ガスを除く32業種が下落となりました。

上記のような状況に加え、当ファンドは先物を組入れることで株式の実質組入比率を170%超と高水準で推移させていることが、基準価額下落の要因となりました。

3. 今後の見通し

景気や企業業績の先行きを過度に悲観する見方などから国内株式市場は大幅に下落し、株価は割安圏にあると考えられます。ただし、短期的には米中の貿易摩擦や世界景気の先行きなどに対する警戒感は根強く、発表される経済指標や政治イベントの動向に対して神経質に反応する展開が予想されます。引き続き各国要人の発言や金利・為替・原油動向などに留意が必要と考えます。

以上

【当資料のご利用にあたっての注意事項】

- この資料は、三井住友アセットマネジメント株式会社が作成したものです。一般社団法人投資信託協会規則に基づき制定した当社社内ルールに従い、受益者の方に「ファンドの基準価額に重大な影響を与えた内容の開示」を行う受益者様用資料です。金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。
- 投資信託は、値動きのある証券(外国証券には為替変動リスクもあります。)に投資しますので、リスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本や利回りが保証されているものではありません。
- 投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 投資信託は、クローズド期間、国内外の休祭日の取扱い等により、換金等ができないことがありますのでご注意ください。
- 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に市場環境にかかるデータ・分析、運用・分配金実績、運用方針等が示される場合、それらは当資料作成時点のものであり、将来の市場環境・運用成果等を保証するものではありません。分配金は金額が変わる、または分配金が支払われない場合もあり、将来に関し述べられた運用方針も変更されることがあります。